

平成23年度 森プロ事業実績：中沢森プロ（恵南第2）

（平成24年3月末現在）

		H21～22年度		H23年度			5力年	
		計画	実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		322	174	171	196	115%	人工林のみ	598
作業道(m)		2,580	618	2,160	0	0%		5,340
間伐等	面積(ha)	223	98	75	181	241%	利用+切捨	448
	材積(m3)	3,200	1,339	2,700	1,003	37%	支障木含む	11,300
備考		団地外実績(利用間伐:56ha、搬出材積:3,199m3、作業道開設:1,080m)						

H23年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)

3,852円/m3

施業集約化の状況

- ・上・中・下の3地区ごとに森林整備推進員を各1名設置し、集約化を実施。
今年10月末日までに全エリアの施業の同意取付けを完了予定。

施業プランの活用状況

- ・社内的なプランナー研修にて、各種係数を設定した単価を算出中。
- ・H24より新たな媒体を使用した活動を予定。

施業プランナー等の養成状況(H23年度)

- ・社内的なプランナー研修(林分調査の効率化と高精度の事業計画数量算出を目指す)を毎月二回程度開催。



作業道等の状況

- ・3年目も以下の理由から作業道の新規開設は未実施。
「費用対効果が明確になるほどの事前林分調査がされていない(事業計画の甘さ)」
「対象エリアへの作業道の必要性に疑念を感じたため(同上)」
- ・一昨年度改修した市道の法面一部が降雨により崩落。恵那市・串原振興事務所による修繕作業で復旧した。

作業システムの状況

- ・ 架線系新システム: 伐倒・造材・枝払: チェンソー→集材: タワーヤード、ラジキヤリー1.0t→積込・運搬: クレーン付き8tトラック

タワーヤード使用状況



- ※ タワーヤードを導入し、架設作業効率がラジキヤリーに比べて6分の1に短縮された。
- ※ 搬器の移動や土場の位置決め、採算分岐点となる架線距離など、各作業・技術の習熟に時間を要する。

その他

- ・ H24・3月、林野庁森林整備部との意見交換会を開催。

森プロの成果

- ・ 集約化から施業実施に至る森林管理手法(森プロ団地内を大・中・小エリアに区分)が確立されつつある。
 - ・ 大エリア…生産林・環境林区分
 - ・ 中エリア…林班単位、尾根谷区分(50ha程度)
 - ・ 小エリア…作業実施単位(10~20ha程度)
- ・ 実施三年目を迎え、地区内所有者の林業意欲の向上を肌で感じるようになった。(所有者への利益還元や、加速度的な森林整備を目の当たりにして)
- ・ 23年度は、条件不利森林公的整備加速化事業を活用し、水源林・集落周辺の保育間伐を中心に実施した。
- ・ 新たな取り組みとして、長期育成循環施業(帯状・単木伐採)を行い、タワーヤードを使用した架線集材の経験を積み、生産性の向上が図れた。

今後の課題

- ・ H24は最終エリア90haを、森林整備加速化・林業再生事業を活用し、全施業地の整備完了を目指す。
- ・ 整備完了箇所管理や、開設作業道の維持管理手法と費用の捻出先を検討する。
- ・ 整備完了後、地域の所有者に対し完了報告の手法を検討する。
- ・ H24年度、県が主催する施業プランナー養成基礎研修に、参加予定。